
Innovation & Rebuild

株式会社メガチップス
2010年3月期第3四半期 決算説明

<http://www.megachips.co.jp/>

目 次

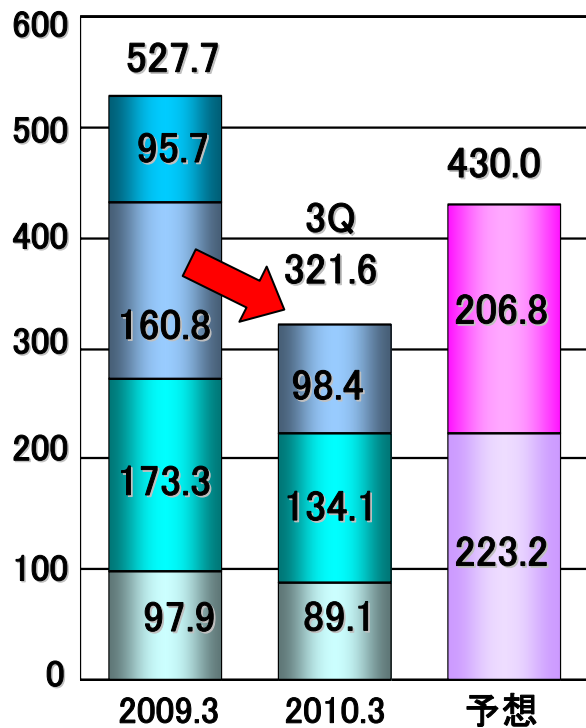
1. 2010年3月期 3Q業績報告	3
2. 2010年3月期・中期経営方針	10
3. まとめ	18

2010年3月期 3Q業績報告

2010年3月期 3Q業績(連結)

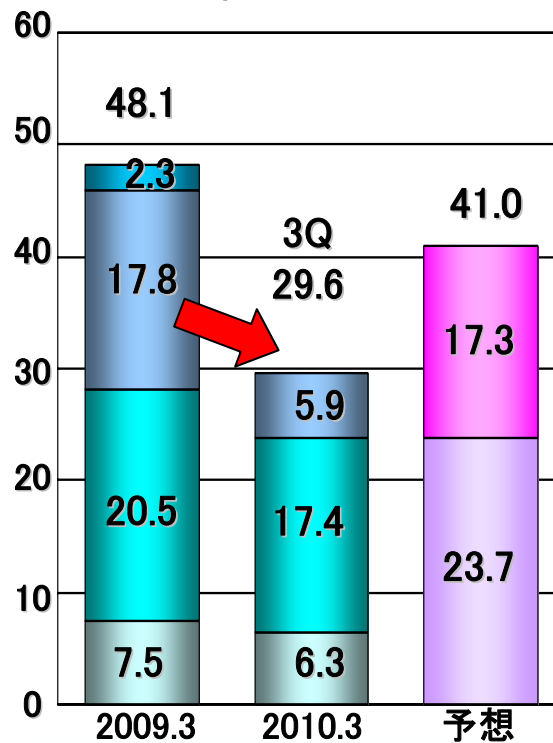


(億円) 売上高



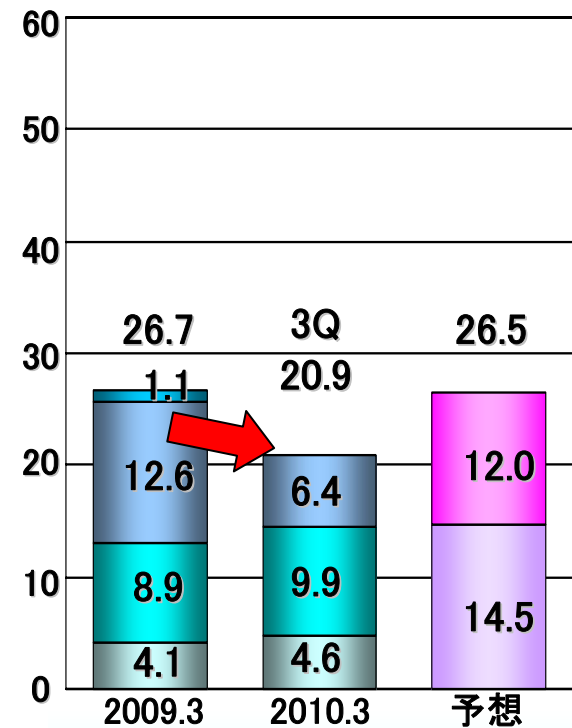
売上高 321.6億円
(- 25.5%) <74.8%>

(億円) 営業利益



営業利益 29.6億円
(- 35.3%) <72.3%>

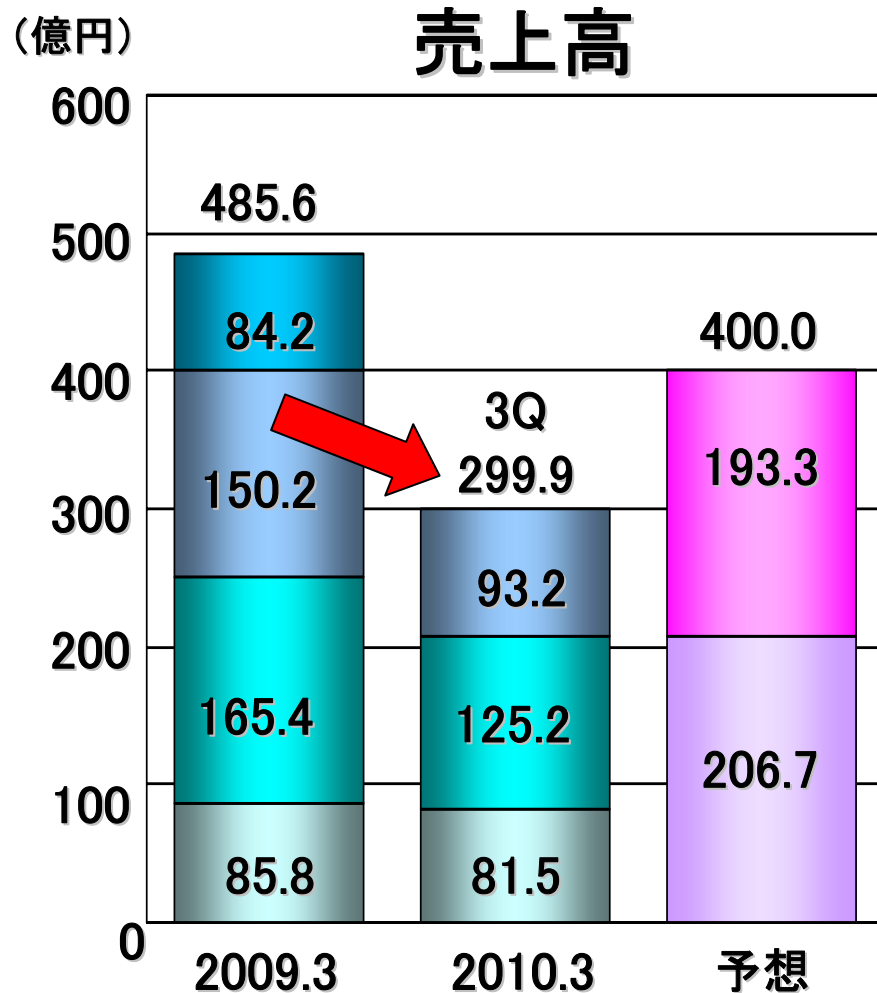
(億円) 当期純利益



当期純利益 20.9億円
(- 18.3%) <79.0%>

※()は前年同期比増減(%), <>は通期業績予想進捗率(%)
※予想数値は、10月30日公表数値です。

LSI事業の売上高



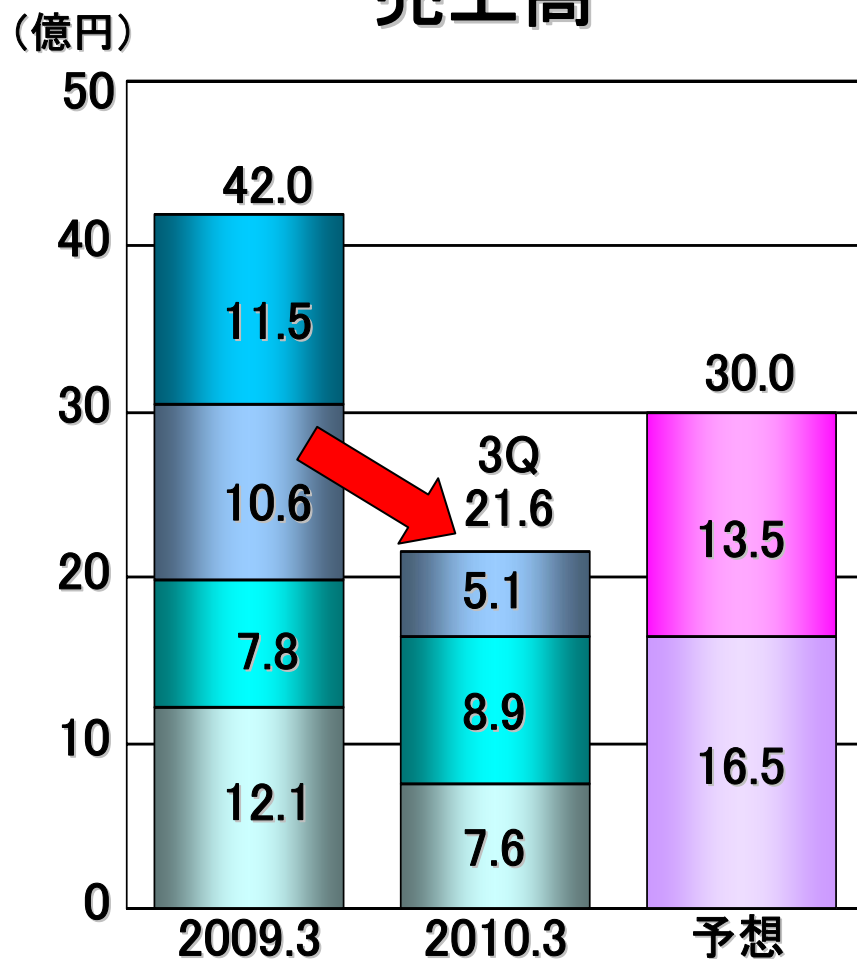
売上高 299.9億円
前年同期比 - 25.3%
通期業績予想進捗 75.0%

- 主要製品である携帯ゲーム機向けソフトウェア格納用LSIの需要が減少したこと、また、デジタルカメラ向け画像処理用LSI及びハイビジョンAV向け録画用LSIの需要は堅調であったものの、地上デジタル放送ワンセグメント受信チューナーモジュールの需要が減少したことにより、売上高は前年同期比で減少した。

※予想数値は、10月30日公表数値です。

システム事業の売上高

売上高



売上高 21.6億円
前年同期比 -29.0%
通期業績予想進捗 72.2%

- 顧客専用映像監視機器の需要が減少したため、売上高は前年同期比で減少した。

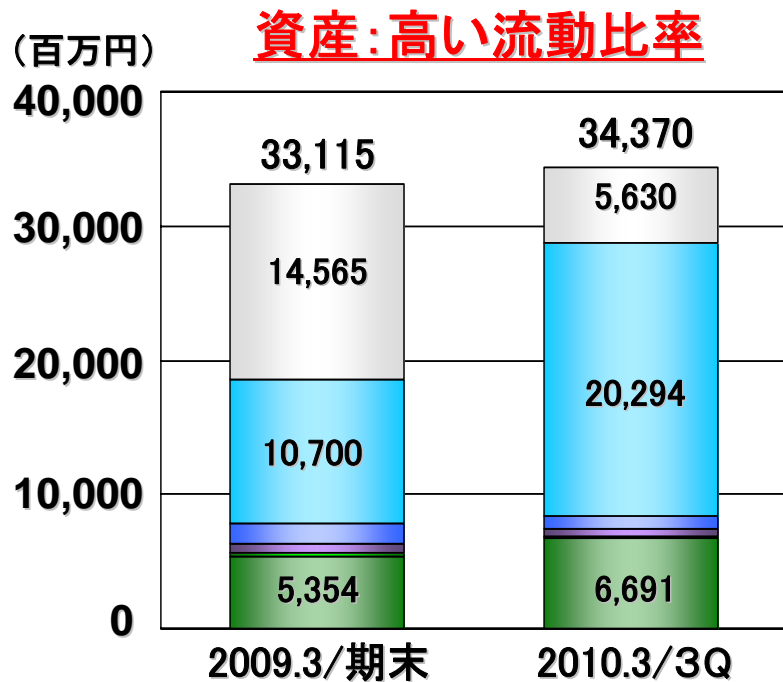
※予想数値は、10月30日公表数値です。

第3四半期累計期間_連結業績(P/L)サマリー

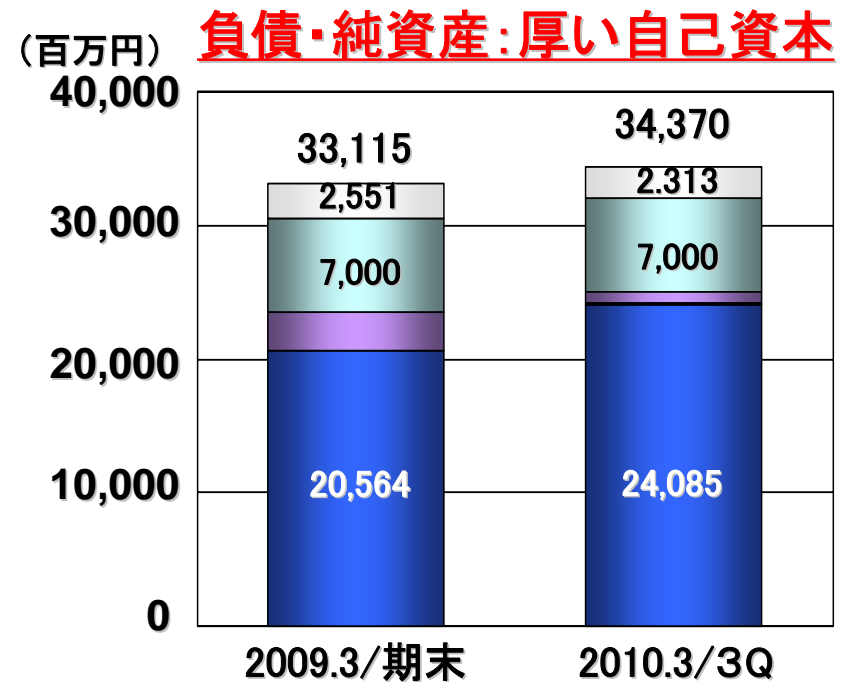
(単位:百万円)		2010.3期 3Q(累計)	2009.3期 3Q(累計)	2010.3期 通期予想	対前年 同期比	対 通期予想 進捗率
LSI事業	売上高	29,999	40,151	40,000	- 25.3%	75.0%
	営業利益	3,621	4,513	4,700	- 19.8%	77.0%
システム 事業	売上高	2,165	3,051	3,000	- 29.0%	72.1%
	営業利益	- 629	69	- 600	—	—
連結	売上高	32,164	43,203	43,000	- 25.5%	74.8%
	営業利益	2,964	4,583	4,100	- 35.3%	72.3%
	経常利益	3,045	4,729	4,100	- 35.6%	74.3%
	当期純利益	2,094	2,564	2,650	- 18.3%	79.0%
	1株利益(円)	86.30	105.72	109.09	- 18.4%	79.1%

※予想数値は、10月30日公表数値です。

2010年3月期 通期連結業績(B/S)

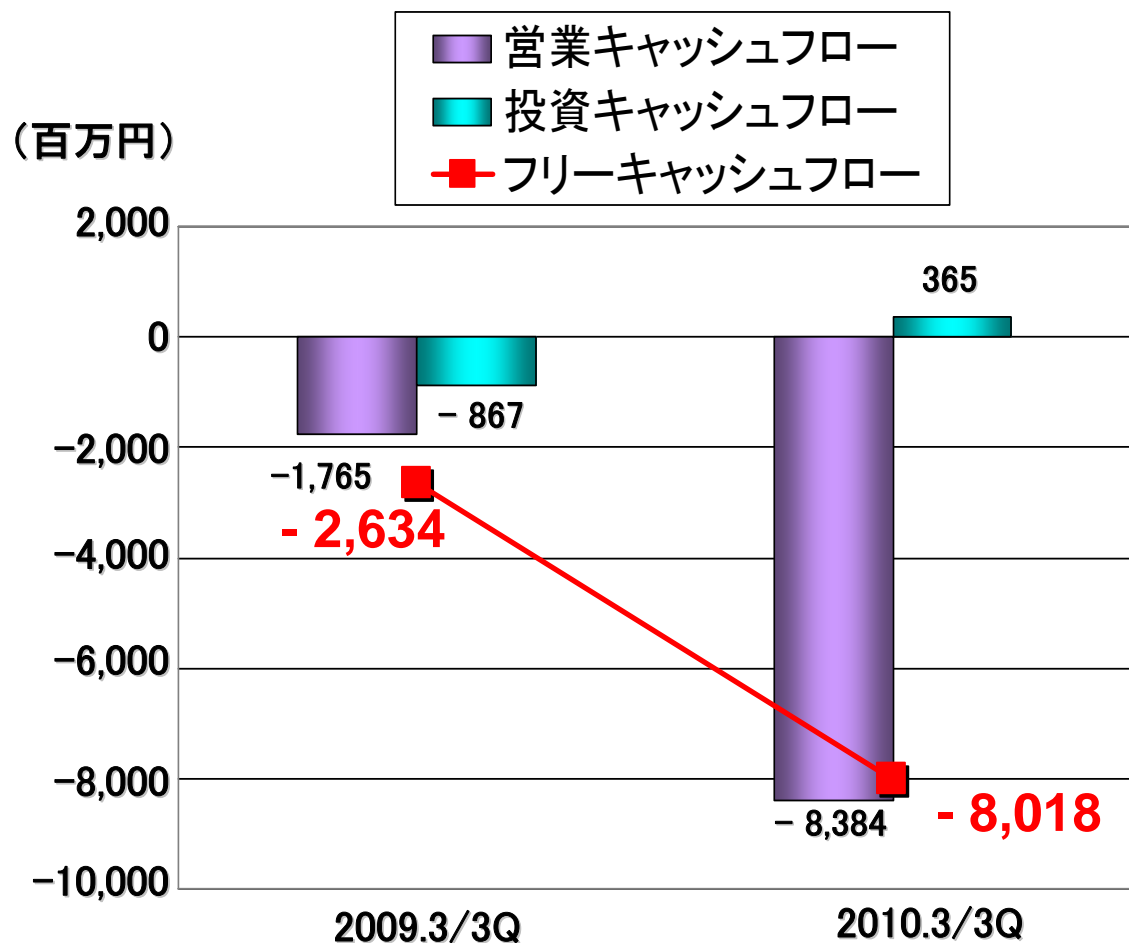


	2009.3/期末	2010.3/3Q
現金及び預金	14,565	5,630
受取手形及び売掛金	10,700	20,294
たな卸資産	1,558	961
その他の流動資産	638	557
無形、有形固定資産	296	234
投資その他の資産	5,354	6,691



	2009.3/期末	2010.3/3Q
支払手形及び買掛金	2,551	2,313
有利子負債	7,000	7,000
その他流動負債	2,953	922
その他固定負債	45	48
純資産	20,564	24,085

2010年3月期 通期連結業績(C/F)



※売掛債権の増加と法人税等の支払い

2010年3月期・中期経営方針

2010年3月期中期成長戦略

日本でNo.1のLSI関連ファブレス・ベンチャー企業として！

景気の波に左右されず、安定成長を継続する。そのために、

1. 顧客密着型のビジネスに集中

ビジネスモデルの多様化により幅広くソリューションを提供し、
有力顧客に付加価値をもたらす顧客密着ビジネスに注力。

2. 新たな事業を立ち上げ、事業ポートフォリオを構築

景気に左右され難いエコ・エネルギー分野市場への参入。
成長事業への選択と集中により、事業ポートフォリオを構築。

3. 高収益化への体質改善

開発のスピードアップ、業務効率改善、在庫の縮減等で無駄を省き、
事業効率向上と環境維持への貢献。

今後の事業展開(課題)

今後の取り組み

- ・顧客との長期的なwin-winの関係構築。
- ・ターゲット(市場・顧客)を見直し、事業ポートフォリオの再構築。
- ・顧客・アライアンスを含めたビジネスモデルの最適化。
- ・原価・開発費の低減。

●2010年3月期中期成長戦略

1. 顧客密着型のビジネスに集中
2. 新たな事業を立ち上げ、事業ポートフォリオを構築
3. 高収益化への体質改善

●今後対処すべき経営リスク

1. 特定顧客依存度(携帯ゲーム機向けメモリ依存度)が高い。
2. 特定生産委託先依存度が高い。
3. 次世代人材育成。
4. 知的財産のさらなる確保。

中期成長戦略として目指す
事業ポートフォリオとターゲット市場

新事業

家庭インフラ
エコ・エネルギー
市場

アミューズメント
市場

既存事業

ゲーム市場

デジタル家電
市場

セキュリティ
市場

LSI事業セグメント 事業領域

- 既存顧客向け供給製品の競争力強化と多様化
(各種ソリューションへの展開)
- 顧客専用ビジネスでの新規顧客開拓
(アミューズメント用応用特化メモリ等)

アミューズメント分野

- 新規顧客開拓
(応用特化型メモリ、画像・音声処理関連製品等)

エンターテインメント分野

- 大容量・短納期・高セキュリティの応用特化型メモリ
- オプション機器向けソリューション
- 携帯型ゲーム機および据置型テレビゲーム機向けの各種ソリューション

現在の主要製品



携帯ゲーム機向けゲームカセット用LSI



据置型ゲーム機本体向けLSI

※ニンテンドーDS、Wiiは任天堂株式会社の登録商標です。

LSI事業セグメント 事業領域

- 有力顧客にターゲットを絞った専用LSI、モジュールの提供及びIPビジネス(開発資産)の展開
- 家庭インフラ、エコ・エネルギー分野への新規取り組み

家庭インフラ
エコ・エネルギー分野

- 通信、センサー応用、制御
センサーと通信を組み合わせたモジュール、省エネ・環境
対応製品

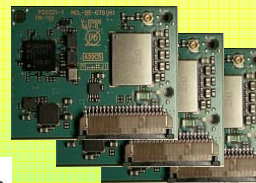
デジタルカメラ分野
AV分野

- 有力顧客にターゲットを絞った専用LSI、モジュール、IP等の提供

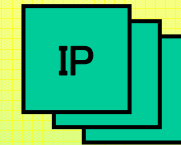
システムLSI



モジュール



各種IP



現在の主要製品



デジタルカメラ



AV機器向け



システム事業セグメント 事業領域

- 既存顧客への供給製品多様化で事業拡大
- セキュリティ・モニタリング用途の顧客専用システム事業に『集中』・『特化』し収益の維持・拡大

ホームセキュリティ分野

- ホームセキュリティ用機器の拡大

業務用セキュリティ分野

- デジタル方式 監視カメラの強化

- フルデジタル映像監視システムの供給製品拡大
(ネットワーク対応で小規模～大規模監視システムまで対応領域の拡大)

現在の主要製品

- ・画像伝送サーバ
- ・デジタルビデオレコーダ
- ・機械警備用画像撮影システム
- ・セキュリティ用コントローラ端末
- ・ネットワークカメラ など



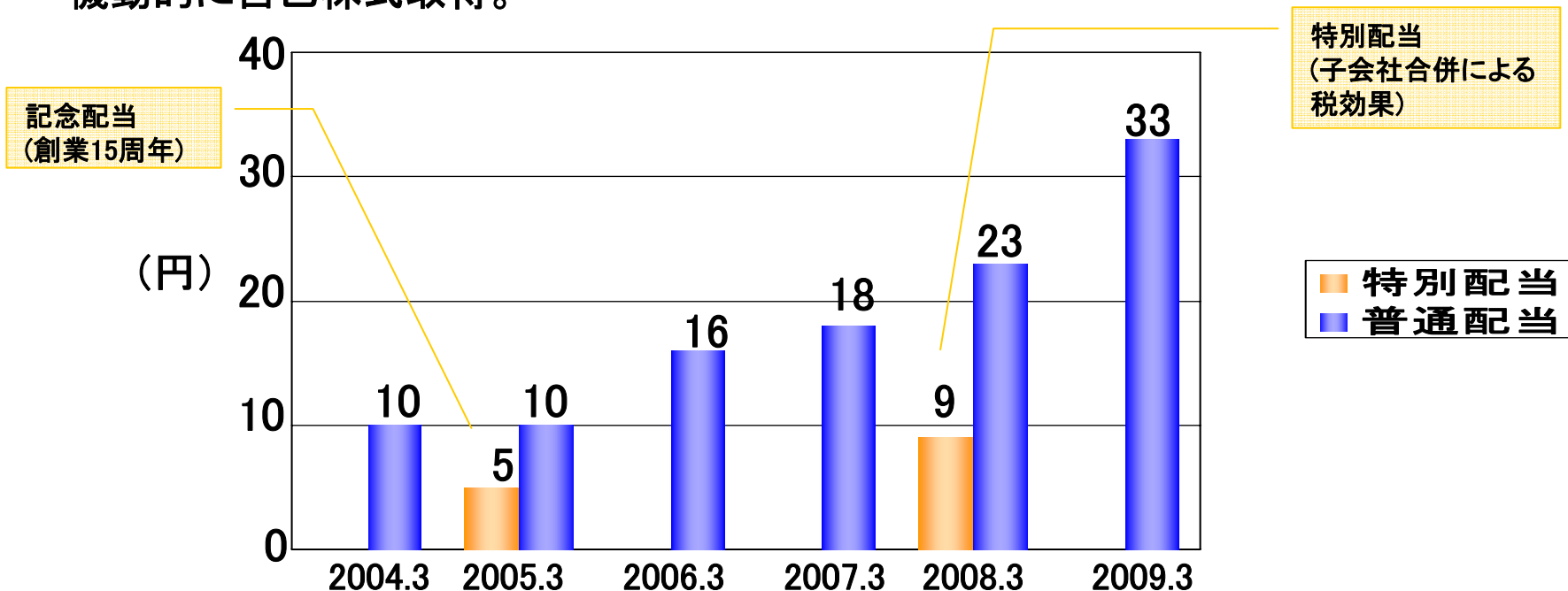
2012年3月期へのロードマップ



経営体質(利益配分)

【配当方針】

- ① 中長期的な成長に向けた投資を行うため、また経営環境の変化にも耐える健全な財務体質の維持に必要な内部留保を確保。(従来から変更なし)
- ② 剰余金の配当は、配当性向30%程度、または連結純資産配当率(DOE) 2%程度のいずれか高い方。
- ③ 資本効率向上のため、市場の状況、株価動向、財務状況等を勘案し、機動的に自己株式取得。



まとめ (Key Investment Highlights)

当社の得意分野である顧客専用事業を強化・拡大すると共に、LSIからシステムまで幅広くソリューションを提供し、ビジネス機会、顧客層を拡大することで更なる成長を図る。

- LSIとシステムの技術力を最大限に発揮し、顧客密着型のビジネスに集中し、既存顧客への供給製品の拡大と、新規の有力顧客開拓を進める。
- IP、アナログ製品や小規模LSI、また、当社のシステムLSIを核にしたボード・モジュールビジネスを育成し、ビジネス機会、顧客層の拡大を目指す。
- また、インダストリー・社会インフラ分野への新たな展開へも着手する。

IRポリシー

≫ 基本姿勢

当社は、「公平性」「適時性」「正確性」「継続性」に配慮して、経営戦略や財務状態等の会社情報を発信し、経営の「透明性」を高めるとともに、株主・投資家・証券アナリストの皆さまからの当社に対する信頼と適切な評価を得るために、経営者自ら積極的なIR活動に取り組みます。

≫ 情報開示の基準

当社は、金融商品取引法、会社法等の諸法令(以下、「法令」)、また当社の株式が上場されている東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示に関する規則」(以下、「適時開示規則」)を遵守してディスクロージャーを行います。また、法令ならびに適時開示規則に規定される開示基準に該当しない場合でも、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報や、当社への理解を深めていただく上で有用であると思われる情報は、積極的に開示します。

≫ 情報開示の方法

当社は、適時開示規則に定める開示基準に該当する情報、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報は、適時開示規則に従い、東京証券取引所が運用する適時開示情報伝達システム Timely Disclosure network (TDnet) を通じて開示するとともに、速やかに当社のインターネット上に開設するホームページ(以下、「ホームページ」)に掲示します。
また、これら以外の情報についても、当社を理解していただく上で有用であると思われる情報は、IR情報誌等の発行や、ニュースリリースの配信やホームページへの掲載を通じて情報発信します。

IRポリシー

≫ 将来の見通しについて

当社が開示する情報の中で、業績予想や将来の予測等に関する記述は、その情報が開示される時点で経営者が入手した情報に基づき判断した予想であり、不確実性や潜在的なリスク(以下、「リスク」)が含まれる場合があります。しかし、結果としての業績等は、変化するさまざまな要因によって、予想とは異なることがありますことをご承知おきください。これらリスクは「事業等のリスク」として開示に努めますのでご参照ください。

≫ 投資の判断

当社の開示する情報は、当社に対する理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の判断において行なわれますようお願いいたします。

≫ 第三者が発行する当社情報への対応

証券アナリストや報道機関、インターネット上のさまざまな情報サイト等の当社以外の第三者が発信する、当社の情報・業績予想等各種情報については、当社はコメントやこれらを支持する立場にはありません。ただし、これらの内容に明らかな誤りが含まれており、当社への信頼と適切な評価が得られないと判断する場合には、その誤りを訂正し、正確な情報を伝えるための対応をいたします。

≫ IR沈黙期間

当社は、株価に影響を与える決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、各四半期の、決算日の5営業日前から決算発表日までを沈黙期間と定めます。この期間中は、決算に関連するお問い合わせへのコメントを控えさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。ただし、法令や適時開示規則に該当する情報については、沈黙期間中であってもディスクロージャーを行った後、お問い合わせに対応いたします。

≫ 関連

適時開示に係る宣誓書(東京証券取引所ホームページに掲載)
適時開示体制概要書(東京証券取引所ホームページに掲載)
情報開示標準(当社社内規則)

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社メガチップス
財務経理統括部 広報部
ir-team@megachips.co.jp

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4丁目1-6 アクロス新大阪
TEL: 06-6399-2884(代) FAX: 06-6399-2886